



No.793
2023.3.17

発行：男声合唱団 昂
レッスン会場：
大阪市中央区谷町7丁目1-39
谷町第2ビル308号 ねむかホール
連絡先：090-6058-5652(立川)

昂・定例練習日を追加

新期：第4火曜日 14:00～16:00
復活：第5金曜日 18:00～20:30



2月28日初めての第4火曜日練習風景

2月28日(火)14時から、新たに追加された第4火曜日の練習を行いました。指揮者の坂井さんの都合が悪く、副指揮者の伊藤さん、ピアノは森さんでの練習でした。参加者22人。

この練習日の追加は、コロナによる練習休止の可能性を超越して、練習可能時期にレッスン回数を増やしたらどうかという技術部からの提案を受けて、特に練習の間隔が開く毎月の後半についてアンケートを取って決めたものです。

新しく、第4火曜日の14時からと、中止になっていた第5金曜日の18時から練習を追加しましたので、間違わないように参加してください。(今年は、第5金曜日があるのは、3月、6月、9月の3回です)

第14回コンサートのチラシ完成 特別団員募集とコンサートの開催を知らせましょう

第14回コンサートのチラシが完成しました。

今回も更家さんに、3月13日の大阪のうたごえ協議会総会に間に合わせるため尽力していただきました。

今回、特に早くしたのは、「地底のうた」を歌う特別団員を募集するためです。5月21日(日)から、毎月1回の「地底のうた」特別団員の練習が始まりますので、チラシを活用して心当たりのある方に声をかけてください。

昂からも、過去に特別団員としていっしょに歌っていた方々にお誘いの連絡をする予定ですが、やはり知り合いの方にひと声かけていただくのが最善です。

また、コンサートの開催についても、いつもお願いしている方にお知らせして、予定に入れてもらってください。

3月～4月の活動予定 (会議を除く)

- 3/17(金) 18:00 定例レッスン
- 3/19(日) 14:00 定例レッスン
- 3/28(火) 14:00 定例レッスン(新規第4火曜14:00～)
- 3/31(金) 18:00 定例レッスン(復活第5金曜18:00～)
- 4/ 2(日) 14:00 昂 友の会 定例練習会
- 4/ 4(火) 15:00 T1.2パートレッスン
- 4/ 6(木) 18:15 声楽千秋教室 I
- 4/ 7(金) 13:30 声楽中村教室
" 18:00 定例レッスン
- 4/11(火) 18:00 Br. Bsパートレッスン
- 4/16(日) 14:00 定例レッスン
- 4/20(木) 18:15 声楽千秋教室 II
- 4/21(金) 18:00 定例レッスン
- 4/25(火) 14:00 定例レッスン(新規第4火曜14:00～)
- 4/30(日) 14:00 定例レッスン

合唱発表会の曲目決定

「ヒロシマ 母の思い語り継ぐ」 「種子」(たね)

5月7日(日)南部合発、7月9日(日)大阪合発に向けての曲目が、「ヒロシマ 母の思い語り継ぐ」と「種子」に決定しました。

1曲目は、千秋さん・森さんのコンビでヒロシマ・原爆への思いが詰まった創作曲。2曲目は、信長貴富作曲、寺山修司の詩による6つのうた「思い出すために」より「種子」です。(曲目の解説は裏面に掲載)



チラシ表面



チラシ裏面

ねむかホールの換気設備の改善 (その2)

廊下側の換気扇が新しくなり、工事が完成しました。



(工事前)
事務室と廊下の間の換気扇。
事務所から廊下への排気用でした。



(工事後)
同じ大きさで強力な有圧換気扇に変更しました。
廊下から事務所への吸気用です。

玄関ドア上の換気扇も同じものに取り替えました。
現在、換気状況は以前より良好になっています。
○換気工事の費用に対するカンパをお願いします。

どうぞよろしくお願ひします

商 智明さん(日曜団員・T2)の自己紹介

- ・1940年8月大阪市内生→守口南寺方(鶴見緑地東)疎開→戦後現在地(大阪市旭区)
- ・物心付いた1950年(昭和25年)母子家庭の7人姉妹の長男。
- ・勉強や音楽より生活費稼ぐのが長男の宿命!
- ・何とか義務教育終えて、寝る時間以外働いて節約して独立資金返済!
- @音楽との出会い
- ・小学校担任 アコーディオンで童謡唱歌弾き語り。
- ・我が家の横京阪電車高架に屋台。ギター三味線の流しが。
- ・反対側はダンスホールでラテンタンゴ軽クラシックまる聞こえ。
- ・学生時代有れば瞬発力はテニス、持久力は登山。
- ・音楽、美術、映画、旅行は人生に不可欠と40歳で少しの暇と資金出来て一気に全て。
- ・公立高校も行く余裕無かったトラウマで全て我流独学!
- ・若いころ民音労音も北浜中央公会堂のぞいたが勤め人対象で時間無理。
- ・『一万人の第九合唱』第1回山本直純指揮は練習時間帯選べた。佐渡裕指揮も数回
- ・地元『混声合唱団』や『フロイデ合唱団』60歳後半まで。
- @この度初めての『男声合唱団 昴』20年近いブランク&83歳の高齢ですが、病気や怪我で入院や通院も無く、老化で仕方ないので脊柱管狭窄症の定期健診60歳後半から行くようになりました。



皆さんの迷惑にならない様に付いて行きます宜しくお願いします。_(._)_

商 智明

合唱発表会演奏曲について

ヒロシマ 母の思い語り継ぐ

2021年の広島うたごえ祭典の会場移動の時、乗ったタクシーの運転手さんが偶然被爆二世の方でした。

私が原爆資料館では厳粛な気持ちになりました、と話すとお母さんの話をして下さいました。

「母を新しくなった資料館に連れて行くと、急に大きな声を出しました。『こんなもんじゃねー』『あんなもんじゃねー』と広島弁で怒るのです。『本当のことが伝われば原爆作る人も作らんようになるのに!』と!」彼は母の言葉を語り部として私に語り継いでくれました。

そのことに感動し、森先生に歌にしてもらいました。

文科省は資料館の内容を、中学生に気分を悪くする人がいるからとどんどん変えて行っているようです。原爆の本当の姿が未来に伝わらず、薄らいで行く。ヒバクシャの数も減って行く。戦争体験者も減っていく。

唯一の被爆国として今の時期こそ核兵器禁止条約を批准し、核兵器のない世界実現に向け、進むべきと思います。そして歌いたいと思います。(千秋 昌弘)

種子

寺山修司の「種子」は、彼が本の中で紹介した、ルーマニアの革命家ゲオルギウの「もし世界の終りが明日だとしても私は今日林檎の種子をまくだろう」という言葉に触発された詩のようです。

信長貴富は、寺山の青春時代の抒情的な愛の詩集「愛さないの、愛せないの」から6つの詩を選んで「思い出すために」という曲集にしました。彼の詩を「孤独の闇」と評していますが、「種子」は、荒涼たる現実に「愛・希望」を明日につなげたいという思いを感じますし、曲集の最後にふさわしいダイナミックな音楽性で、一筋の光明を感じさせる構成になっているのではないのでしょうか。(吉岡 敬)

追悼



はが(土へんに並)さんが2月11日、ご逝去されました。

1938年(昭和13年)9月14日のお生まれで、享年85歳でした。

はがさんは、昴の練習に長く欠席されていましたが、月に一度程度電話で様子をお聞きしていました。突然の訃報に本当に驚いています。

昴への入団は、2004年(平成16年)でした。元々物静かな方で、長年ソフトボールをやられ、一時は中学校のPTAでつくるシニアソフトボールの監督をなさっておられました。コロナが発生してから練習ができなくなると共に、ご自分が間質性肺炎に罹られ、長く入院されていました。

ご一緒してる別の合唱団では、他のメンバーに音楽理論をレクチャーするなど、結構詳しい一面もありました。

心より哀悼の意を表します。はがさん、どうか、安らかに眠りください。

ベース 東尾博司